

令和5年3月31日

令和4年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園
静岡福祉医療専門学校

文部科学省「専修学校における学校評価について」による学校評価ガイドラインをベースとして自己点検・評価を実施してまとめた「令和4年度自己評価書」を元に、令和5年3月16日、学校関係者評価を実施した。

文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

令和4年度学校関係者評価委員及び事務局

<関連団体>

鳥羽 茂 氏 特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会 事務局長

<保育関係>

増田 智美 氏 学校法人中村学園 第一ひかり幼稚園 園長

<卒業生>

川崎 誠之 氏 社会福祉法人駿河会 特別養護老人ホーム晃の園
相談員兼ケアマネジャー

石間 洋美 氏 一般社団法人日本顧問介護士協会 理事長

<事務局：本学教員>

中村 徹 理事長・校長

有賀 浩 副校長・教育部長

富田 順子 教頭

中村 健太郎 教育改革推進室室長

原木 伴美 教務課長

後藤 明子 子ども心理学科 学科長

磯野 博 総合福祉学科 学科長

三嶋 秀子 介護福祉学科 学科長

鈴木 ほまれ 視能訓練士学科 学科長

1. 評価項目別学校関係者評価

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

(1) 教育理念・目標

評価項目	4段階評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

<p>① 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「建学の精神」と「校訓」の具現化に向けた日々の指導を行う。 ・新たな「教育方針」の意味を教員・学生、そして保護者に周知し、自らの言葉で表現できるようにする。 ・実習や就職、国家試験や各種試験に適応できる座学、演習、実習の内容を検討する。
<p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、毎朝のSHRにおいて、日々の時事問題と重ねながら「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の具現化に向けた課題を確認する。 ・後援会 総会、学級懇談会において保護者 全員に対して「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の意味を周知し、学期などの節目も必要に応じて保護者への連絡を行う。 ・ロールプレイを多用し、臨床に近い条件を経験できるようにする。 ・オンラインでも上述の趣旨を生かした授業ができるよう準備する。
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・ロールプレイはとても良い。聞いているだけよりも身になりやすい。慣れていない部分があるので、複数回実施することも必要。議論を深める、質を向上させていくことが大切。

→視能訓練士学科では、90分授業の一部で実施。実習前にも指導者役・患者役などを設定して実施。学内実習の中でもペアになり患者役(設定は自分で考える)と検者に分かれて実施も検討中。

(2) 学校運営

評価項目	4段階評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(3) 教育活動

評価項目	4段階評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4

・授業評価の実施・評価体制はあるか	2
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

<p>① 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の実施・評価体制が不十分な面がある。 ・学生の手引きを精読し、評価や判定基準の周知徹底を図る ・オンラインとリアル、それぞれの授業の方法と趣旨をすべての学生が理解し、スムーズに受講できるようにする。 ・カリキュラム改正の趣旨を反映した教員の確保と実習施設・団体の開拓を行う。 ・各教員が自主的に研修を計画し、研修成果の共有をできるようにする。 ・外国人留学生の実習に向けて、実習施設の理解が得られた。今後も引き続き、受け入れ態勢を強化してもらう。 	
<p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科内で適切な授業評価を実施したい。 ・災害時、欠席、成績が D 評価の場合など落ち着いて行動できるように、入学後・実習前など数回に渡り学生の手引きの重要性を啓蒙する ・オンラインとリアルの授業の内容に格差がないよう、教員間で協力して準備を行う。 ・新カリの趣旨と要件に合致した教員を確保するとともに、卒業生に協力を依頼し、実習施設・団体を開拓する。 ・個々の教員の専門に基づいた研修を計画するとともに、職員会議に研修成果の共有の場を定期的に設ける。 ・実習前指導に加え、実習巡回時の状況を教員間で共有し、迅速に対応できるようにする。 ・コロナ禍、刻々と変わる実習受け入れ条件や実習施設の状況を教員間で共有し、学生指導に齟齬がないようにする。 ・学歴、教歴、実務経験のバランスに配慮し、変更された科目の趣旨に合致した教員を確保するとともに、卒業生に協力を依頼し、新たな実習施設・団体を開拓する。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員の専門・興味に基づいた研修は夏季動静機関に集中しているが、動静期間中（後）には研修成果の共有の場を設けていく。教育方法など、全体に共通するテーマの研修は、年間を通して計画的に行っていく。
<p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・合意形成、ファシリテーションのスキルを身に付ける。意見が相違した場合の合意をどのようにとっていくかなども教育として取り組めると良い。現場で非常に重宝されるスキル。プロセスから学べれば対人関係の調整など就職後に現場で活かしやすい。
 - 子どもについてはすごく意識して指導しているが、大人とのコミュニケーションが苦手な学生が多い。対保護者の部分に必要なため注力していきたい。
 - 学科間の連携も含めて今後発展させていきたい。
- ・感性を鍛えること。相手の求めることを創造する力を養ってもらいたい。自分たちが議題に対してどう考えるか、自分は？他人は？など意見を出し合う場を設けるといいのではないかな。他人との感じ方、受け取り方の違いを、身をもって感じられるような機会があるといい。HRの時間などを活用して実施できれば。議題についての意見を出し合い、それについて感想を言い合う。良いポイントを伝えることで相手への話し方・伝え方を鍛えるような内容。日常的にそういう場を設けることで力をつけていけるのではないかな。
- ・保護者に対応する場合も、よいところを伝えてから改善点を伝えることで話をしやすくなる。一人一人の気づきをしっかりと他人に伝えられるよう、表現する力を伸ばしてってもらいたい。
- ・教育活動について・授業評価の実施評価体制は具体的にどのようなになっているのか？具体的な評価内容・方法は？
 - 学生からのフィードバックが網羅できていなかったので次年度以降スケジュール調整等行い確実に実施をしたい。
 - 学生からの授業に対する評価をまとめている。シラバス・授業内容などについての評価をもらう。学校独自の基準で実施をしており、授業形態ごとに評価方法を変えている。

- ・学生から以外でも教員同士での力量評価・他己評価も実施して、年度を振り返りながら次年度への発展をして行けると良いのではないだろうか？職員間の情報共有も深まり応用的な展開もしていけると思う。

(4) 学修成果

評価項目	4段階評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・入学後から前期の終了までに最も退学者が出やすい。保育者になるために必要な生活習慣・学力・意欲が伴わず、進路変更を希望する学生が毎年出てしまう。
- ・就活行動の遅い学生に対して、迅速に動けるような指導が必要。
- ・求人の時期は早まる一方、学生の就職活動が遅れ気味になっている。
- ・就職率は100%であるが、介護福祉士国家試験の合格率が100%に至らない。
- ・卒業後のキャリアアップに向けての支援に偏りがある。

②今後の改善方策

- ・入学前指導では、知識を増やすことに重きを置いていたが、入学希望者がこれから保育者を目指すために学ぶこと・体験することを提示し、個々に努力すべきことを考え発表できるような内容を導入していきたい。
- ・学生の個性を見極め、臨地実習先での求人の有無を確認し、就職先の方向性を手引きする。
- ・就職希望を早期に固め、希望先の求人状況に合わせた活動と準備ができるようにする。
- ・国家試験対策の各種ツールを駆使し、個々の学生に合った試験対策ができるようにする。
- ・卒業後の進路変更やキャリアアップの希望が掴めるよう、SNSや同窓会ホームページを活用する。
- ・社会福祉士やケアマネジャーなど、卒業生の資格取得に対するニーズを把握し、個別に対応できる体制を整えていく。
- ・「卒業生を囲む会」以外にも卒業生の特別授業などを企画し、在校生と卒業生の交流を進めていく。

③特記事項

- ・学生個々が抱える心理面、経済面、学習面などの課題に迅速に対応している。
- ・退学者が出ているが、各学科とも手厚く丁寧なフォローを心掛けている。

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・仕事の大変さをやりがいとして感じてもらえる機会があるといい。先生から聞くよりも現場の人、距離の近い人から直接聞くことで感じてもらえるのではないだろうか。
- ・介護や保育は希望者自体が少ないため苦戦している部分があるだろう。小学生などの層から認識・理解をさせていく必要を感じているので、施設等とも連携をして活動をしていくといいのでは。
- ・実習日誌等を見ると確かに学生の「書く」能力の低下は感じられる。ただ今年度は上記の個別指導のような取り組みもあり昨年に比べて改善しているように見受けられる。
- ・なぜレポートを実施するのか?のような、学生の動機づけをうまくできると改善に繋がるかもしれない。
- ・社会に出たときにどのような人材になりたい、どのような職場に勤めたいなど、具体的な自身の将来のビジョンを持てるような入口を設けられれば、動機づけにも繋がるのではないだろうか。
- ・本人たちが共感できるような立場のひとから(キャリア浅めの方など)実体験を聞くことでモチベーションの向上にも繋がるのではないだろうか。また、学生の健康管理、特にメンタル面のケアについて今後重要性が増してくると思われるので注力していただきたい。

(5) 学生支援

評価項目	4段階評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	4
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

①課題

- ・ 臨地実習への対応力をつける。
- ・ 学内外における学生の主体的活動を進める。
- ・ 関係機関・団体の人材養成に対するニーズが十分に掘り起こせていない。
- ・ 中学・高校とのキャリア教育の連携が滞っている。
- ・ 学生への経済的支援を一層進めなくてはならない。
- ・ 学生に対する個別支援は、問題対応へのウエイトが高く、主体性・可能性を伸ばす支援に傾注しきれていない。
- ・ 関係機関・団体の人材養成に対するニーズが十分に掘り起こせていない。
- ・ 中学・高校とのキャリア教育の連携が一部に留まっている。

②今後の改善方策

- ・ 校内演習時から日誌の記載練習を課し、対応力を養う。
- ・ CAN スカラシップ制度を十分に活用し、学生の主体的な意欲を引き出した活動ができるよう支援していく。
- ・ 実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、教育内容に反映する。
- ・ 個々の中学・高校に対するアプローチに留まらず、ボランティア協会などと連携し、出前講座などを企画していく。
- ・ 引き続き、初任者研修や実務者研修を複数講座行っていく。
- ・ 引き続き、通信制高校と連携した出前講座を行っていく。
- ・ CAN スカラシップを十分に活用し、学生の主体的な意欲を引き出した活動ができるよう支援していく。
- ・ 実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、本学独自の講座を企画していく。
- ・ 個々の中学・高校に対するアプローチに留まらず、ボランティア協会などと連携し、出前講座などを企画していく。

③特記事項

- ・ 特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・コロナ禍でもボランティア活動ができたことは素晴らしい。その振り返りが大切。情報共有も大変よいこと。CAN スカラシップ制度の良さを活かして、学生の意識改革をこれからも続けていってほしい。
- ・CAN スカラシップによるリーダー育成制度は是非進めていってほしい。学生の中から意識が高い者が出てくると全体に良い影響があるだろう。そして、その経験が社会へ出てから役立つこと。ペーパーレス、デジタルの世の中、コンテンツが自力で作れることは今後に生かされる。活動を振り返って相手に伝えることは難しいが、効果は絶大。そこから次の活動につながっていく。創造力向上。更なる活動を大いに期待する。

(6) 教育環境

評価項目	4段階評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4

<p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科で自由に使用できるモニターがない。 ・学生数や講義・演習の変化に対応した施設・設備の工夫。 ・環境整備のため、補助金の有効活用を行っていく。 ・災害や事故に対する組織的対応を周知徹底する。
<p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生からの視点を参考に、校内演習がスムーズに行えるような器機の配置を考える。 ・多額の予算を要することでもあり、改善に向けた計画的な予算執行を行っていく。 ・必要な場合は複数の教員で演習に応じる。 ・補助金も活用しつつ、機器・設備の改善を計画的に行っていく。 ・危機管理委員会と共に全教職員が防災に対する高い意識を持つ。
<p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修就学旅行の実現に向けた具体的な検討を行っていく。

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・学生のうちから用具を使いこなせるように設備の充実があると良い。
- ・モニター等の機材の充足をしていくべき
→コロナ禍になったことで以前は必要性を感じなかった教材設備の必要性が増した。校長と相談しながら改善していきたい。
- ・ICT教育はどこの業界も必須。スマホで卒論を作成する学生もいるそうだが、PCスキルについてもしっかりと身に付けさせていく必要があると思う。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	4段階評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	3
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

- ・1年制から3年制に移行による受け入れ条件の違いや対応をスムーズにできるようにする。
- ・各種ツールを駆使して、学科の特長のアピールを行う。
- ・本学が輩出する人材育成に関して、高校生などが持つニーズを開拓する。
- ・企画広報スタッフと、学科の魅力、特長ある授業の内容を共有する。
- ・介護職希望の学生の取り込みを開拓しなくてはならない。

②今後の改善方策

- ・オープンキャンパスなどに、在校生・卒業生などに参加してもらい、生の声を届けられるようにする。
- ・新たに導入となった適職検査について、オープンキャンパス時に傾向と対策を伝え、丁寧に対応していく。
- ・高校訪問や出前講座、各種イベントで分かり易くPRできる動画や映像を制作していく。
- ・外国人留学生にも本学の情報が適切に伝わるよう、外国人卒業生から口コミで学科の特長と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。
- ・学科内のみではなく、教職員全員が各学科の特長をよく理解し、オープンキャンパス、高校訪問、出前講座において口コミで分かり易くアピールできるようにする。
- ・卒業生からも母校をアピールしてもらうようにする。
- ・毎回、オープンキャンパスの内容を充実させることに加え、年間を通したステップ(段階)が分かり易く伝わるようにする。
- ・高校訪問や出前講座において分かり易くPRできるようにする。
- ・外国人留学生は口コミで広がるのが大きいいため、卒業生から学科の特徴と卒業後の成果をPRしてもらうようにする。

③特記事項

・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・介護のイメージが良くないところもあるので、そこを変えていく必要がある。
老いている方のケア、看取りなど介護はネガティブなイメージは根強い。
医療ではないアプローチ方法で体のケアができるなどのアピール方法でイメージアップに繋がられないか。
- ・未来教育のような形で、小中学校への出前授業などができると良いのでは。
- ・プラスチックごみの回収や処理が今後の世界的な課題になってくと思う。ボランティア活動としても注目される分野ではないか。学校とも連携しながらボランティアの中でもSDGsに関連する取組みとしてやっていきたい。
- ・自身の保育感、理想像をもってもらいたい。自身の得意な部分を伸ばして、活かせるようにして欲しい。リーダーシップをもった学生も今年はみられるのでぜひ就職にむけてがんばっていただきたい。
- ・新卒確保の取組みとして、売りになる職員を前面に出している。同じように売りになる教員(欲しい人材に近い人)を設定し、ターゲットを絞って募集(新卒・中途など)をすることどうまくいくのではないか。
- ・SDGsの取組みについて学生に意識を持たせるような対応が出来ている点が良い。中村学園は目指す学校像が明確なので、方向性に合わせて専門性を発揮できる方に来てもらえると良い。現場の現状を理論的に伝えられる方が先生だと学生も伸びやすいのではないだろうか。

(8) 財務

評価項目	4段階評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目	4段階評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4

①課題
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法の理解と周知徹底を図る。 ・各学期末に授業評価が慌ただしく行われ、十分な時間が取られていない。
②今後の改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ・法令遵守に加え、職業倫理の観点から、個人情報保護の重要性を教員、そして学生に日々、周知徹底していく。 ・ICT や SNS などによる個人情報漏洩の危険性とその防止方法を具体的に周知する。 ・教員による授業全体の振り返りと、学生による授業評価が同時並行できるよう、時間に余裕を持った計画を立てていく。
③特記事項
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	4段階評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

<p>① 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢に合わせて、静岡県眼科医会や静岡県視能訓練士の会など、各方面から情報を収集し、できることを模索する ・各種ボランティア活動を含めた地域貢献を一層積極的に行うよう、学年、学科、学校を超えたコラボレーションのあり方を検討する。 ・広報を兼ね、本学が有する高井専門性と実践力を地域に発信する企画を検討する。 ・リモートやSNSをうまく活用していきたい。
<p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も学生と共に情報収集を行っていく。 ・地域住民や関係機関・団体からのニーズを掘り起こし、学年、学科、学校を超えた持続的な地域貢献ができるよう環境整備していく。 ・本学の長をアピールできる講座などをオンライン、リアルなど、時流に合致した方法で企画できるようにする。 ・地域住民や関係機関・団体からのニーズを掘り起こし、学年、学科、学校を超えた持続的な地域貢献ができるよう、環境整備をしていく。 ・本学の特徴をPRできる公開講座を学園祭以外にも企画し、マスコミにも働き掛け、広報活動にも生かしていく。 ・学生たちが動き始めたクリエイティブな部活動を支援する。
<p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・PR活動、個人情報管理は重要。SNSの威力が大きいことは常に意識しておきたい。影響はプラス・マイナスがある。十分気を付けて活動して行ってほしい。YT、SNSは介護情報として流している。母校への支援を考えたい。

(11) 国際交流

評価項目	4段階評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

<p>① 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受け入れが増えているが、学習支援、生活指導の課題の整理は途上である。 ・技能実習生を対象にした初任者研修などを準備していたが、新型コロナウイルスの影響で受け入れ施設の都合がつかず、実施できていない。 ・留学生の受け入れが増えているが、学習支援、経済的配慮、生活指導の課題の整理はまだまだ途上であり、体系的な支援ができていない。
<p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生支援の体制、特に経済的支援の体制を整備し、留学生が学びやすく、成果が出せるような環境整備を行っていく。 ・留学生以外にも、技能実習生を受け入れている施設からの研修依頼を受けていく。 ・実際に留学生を受け入れている学科に留まらず、学校全体で留学生支援の体制を整備し、複数の国からの留学生の受け入れを積極的に行っていく。 ・留学生以外にも、技能実習生を受け入れている施設からの研修依頼を受けていく。
<p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

評価視点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・留学生専門の教育機関で影響はあるかもしれないが、日本のおもてなしは素晴らしいこと。それも発信すべき。留学生と日本人のコラボには是非注力してほしい。
- 日本人の心は一緒にいなければ伝わらないと考える。非言語的コミュニケーションの重要性。そうしてこそ良い人材が輩出できると考える。

以上